

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270200551		
法人名	株式会社 ユタカ		
事業所名	花梨の郷 (1F)		
所在地	千葉県花見川区千種町111-1		
自己評価作成日	令和元年8月5日	評価結果市町村受理日	令和元年12月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602		
訪問調査日	令和元年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地の中にあり、近隣住民と利用者のふれあいや当たり前の暮らしを大切にゆったりと生活しています。認知症の進行や重度化が目立ってきている為、訪問看護・訪問診療・訪問歯科等との連携を密にしています。また、生活の中に楽しみを感じて頂けるように様々な企画(サロン・レク・外食会等)や季節を感じるイベント等を開催しています。企画にはご家族も参加して頂いており、喜ばれています。生活の場面場面で利用者のできることを引き出しながら、日々の生活に取り組みするよう支援し、介護度に差はありますが、できる人はできない人を手助けしようとする気持ちが見受けられます。施設内だけで完結することなく、外出する機会を多く持ち社会とのつながりを開設当初から大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

千葉県郊外の閑静な住宅街の一角にある2階建てのホームです。近くに公園や商店街があり、散歩や買い物に便利な環境です。利用者は、バルコニーでお茶や外気浴をしてゆったりと過ごしています。
 「1. 家庭的な環境の中で穏やかな暮らし 2. あなたらしさが発揮出来る暮らし 3. 地域の中で人と人との触れ合いを大切に暮らす」と3項目の運営理念を掲げ、全職員は共有し、家庭的な雰囲気の中、笑顔で利用者へ寄り添い利用者個々の意向に沿ったケアに努めています。近隣の保育園の園児や小学生との交流、中学生の職場体験やボランティアの受け入れはじめバザーの開催など、地域住民との交流も活発に行なわれています。主治医、訪問看護師などと医療連携が取れており今年も看取りを行い、「最後まで見ていただき、安らかに旅立った」と家族から感謝されています。今回実施した家族アンケートでも、職員の柔軟な対応などに高い評価を得ています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作り家族・職員も見える玄関やリビングに掲示している。管理者と職員は理念を共有し、実践につなげるよう努力している。	地域密着性を織り込んだ3項目の理念(自分の居場所・役割・支え合い)を玄関やリビング、事務所に掲げ、職員は会議やミーティングの中で唱和して確認・共有し、日頃のサービスの中で実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会主催の行事参加やクリーン活動以外にもボランティアの受け入れ・バザーの開催等、交流や散歩時のあいさつ等で顔見知りになった方にも来て頂けている。	ゴミ置き場や公園などの掃除に参加しています。また近隣の小・中学校との交流会や体験学習はじめ演歌や絵手紙、ちぎり絵、などのボランティアを受け入れています。毎年開催するバザーではカレーや焼きそばなどの店を出し、多くの地域住民も参加して、地域交流を活発に行なっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で自治会の方や民生委員さんと認知症の人の理解や支援の方法について話したり、受け入れるばかりでなく利用者自らが地域主催の企画に参加を勧められたり、地域の住民と交流が持てるよう考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での話し合いでは第三者評価の結果・ホーム内の現状を報告したり、感染症についての話や非常災害時に花梨で出来る事・協力して頂きたい事等の意見交換をし、サービスの向上に活かしている。	会議は、地域包括支援センター、自治会役員、民生委員、利用者、家族、管理者が参加し年4回開催しています。看取りの取組、災害時の対応、食中毒予防などについて意見交換し、参加者からの忌憚のない意見を運営に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かと相談に乗って頂いたり、グループホーム協会を通じて実情や困難事例等を報告したり、事故発生時には速やかに報告をしている。また、行政から介助困難な人の受け入れ要請があれば受け入れるようにしている。	市の関係課には、常に連絡を取り合い相談をしています。運営推進会議にも地域包括支援センターの出席があり、アドバイスを受け密接な協力関係を築いています。また市の職員も出席するグループホーム連絡会にも参加し意見交換をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内外研修により、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関の施錠はせずアラームで対応。職員が見守りや声かけ外に出かける等の配慮をしている。	身体拘束廃止委員会で3か月に1回内部研修を実施し周知徹底を図る他、職員は外部研修にも参加し、理解に努めています。玄関は日中施錠せずアラームで対応、利用者を尊重し見守りに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内外の研修においても高齢者虐待防止関連法令について学ぶ機会を設け、日常の会議でも事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族から要望のあった方に関しては支援させて頂いている。ホーム内研修でも取り上げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	制約の際はもちろん、それ以外でも心掛けている。改定事項がある場合には書類を郵送する以外にも家族会の場で直接説明を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の際に意見や要望を表せる機会を設け、家族アンケート等も実施している。契約の際にも国保連等第三者機関の相談窓口を案内し、玄関にも掲示している。	家族については、面会時や家族会、各種行事(バザー、花見会など)、運営推進会議などを利用して、意見・要望を聴いて運営に反映させています。また、外部評価時の家族アンケートや、ホーム独自のアンケートからの意見も参考にしています。利用者は、普段の触れ合いの中で、思いを汲み取って対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表や管理者は個別面談や会議の場を通じ、運営に関する意見や提案を話し合える関係を作り、反映させている。短時間パートの募集や介護が少しでも楽になるよう入浴リフトも実現している。	代表や管理者は、普段の対応や会議、個人面談などで意見、要望を吸い上げ運営に反映させており、職員休憩所にテレビを設置したなどの例があります。また職員との関係もよく、職員へのヒヤリングでも、「いい職場に恵まれた」と言う声がありました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は勤務状況を把握し、個別面談時に話し合いの場を設け、個々の努力・実績・勤務態度や勤務状況が給与に反映できるよう努めている。また、賞与・会議手当・皆勤手当等もあり、やりがい・向上心を持って働けるよう努めている。妊娠しても安心して働ける環境がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、ホーム内研修開催や外部研修を受けることで、働きながらステップアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しているので、同業者との交流や学ぶ機会があり、質の向上に向けた取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や相談・事前訪問の際に本人からも聞き取りを行う事によって、不安に感じている事や困っている事等を直接聞く機会を設け、少しでも不安が軽減できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や相談・事前訪問の際に本人がいない状況での聞き取りを行う事によって、不安な事や困っている事等を直接聞く機会を設け、今後の方向性や家族の要望等を話し合う事で少しでも不安が軽減できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	導入の際に、本人と家族からの話し合いを通じ、不安や要望を聞かせて頂き、何が改善されれば居心地よく暮らせるのかを見極め、他のサービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共にする中で、趣味や特技を発揮できる場面を作り、利用者自身から教えて頂いたり、相談したりと支え合えるような関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と共に利用者を支えるチームの一員として協力し合い、家族参加の行事を通じて楽しい時間を一緒に過ごしたり、利用者の心配事等も家族に相談し出来る事を取り入れて一緒に本人の為に支え合える関係を築く努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者は家族と一緒に散歩や買い物、お墓参りや外泊等自由に出掛けています。また、知人友人や孫・曾孫等々誰もが気軽に訪ねやすいように関係継続の支援に努めている。	近隣に知人がいる人は、散歩に出かける時間を事前に伝えて途中で出会って話をしたり、行きつけのすし屋や蕎麦屋に職員と共に出かけたりしています。また家族にはホームでのイベントや外出行事の案内をして参加を促すなど、なじみの関係を大切に支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活や企画(サロンや合同企画等々)を通じ、利用者同士が係わり合い、出来る事・出来ない事をお互いに支え合える関係作りができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新盆や命日にはお花を贈ったり、大きな行事等にはお誘いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を共にする中で、会話や個別ケアを通じて、思いや希望・要望・意向等をくみ取るよう努めている。	スプーンで食事するのが難しかったり口に運ぶ動作が疲れる人などに、おにぎりにしてご飯を提供すると、どんどん食べるようになりました。また食欲のない人がウナギのたれをかけるとよく食べることがわかるなど、利用者の様子にアンテナを張り、様々な発見をして支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や馴染みの暮らし方・生活環境等の情報等、申し送りノートを活用し情報共有を図っている。また、家族や前ケアマネとも連絡を取り合い、情報収集・把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の心身状況に合わせた1日の過ごし方や有する能力の見極め等、日々の係わりの中で把握に努め対応している。また、勤務者は業務前に記録を読むことにより把握して仕事ができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には、本人からの言葉や家族・必要な関係者との話し合いや職員からの情報収集・意見等を参考に作成している。見直しは3ヶ月或いは必要に応じて行っている。	入居前に在宅時のケアマネージャーや医療機関から情報を得るとともに、本人・家族から意向を聞き取り暫定のプランを立てます。1か月間様子を見てカンファレンスを行い本プランを作成しています。1～3か月ごとに個別にモニタリングし、必要があればプランの見直しを行います。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ひとりひとりの日々の様子や会話を詳細に記録に残し、気づきや工夫等を申し送りノートに記載する事で、小さな情報でも共有・実践できている。介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や日常生活を通じての係わりの中で発見したニーズ等を共有化し、本人の意向や思いを実現できるよう柔軟に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が顔馴染みの関係作りや、安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るよう積極的に自治会活動への参加や地域の中に出掛ける機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が選んだかかりつけ医の下で適切な医療を受けられるよう支援している。付き添いは原則、家族にお願いするか同行している。必要に応じて訪問歯科・訪問診療等受けられるよう支援している。	入居時に訪問診療医にするか従来のかかりつけ医のままにするかの選択をしています。週に1回訪問看護が入り、利用者の健康を管理するとともに必要時には医療機関につなげています。重度化に伴い受診が難しくなってくると訪問医への移行も検討されます。かかりつけ医の受診には職員も同行し、医療との連携に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師が週一回訪問した際、近状や気付きを報告し情報共有している。その事により、個々の利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や入院中の状況把握に努め、早期退院に向けて病院関係者や家族との情報交換・相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針について契約の段階で説明・同意を得ているが、利用者の状況に応じて家族との話し合いの場を設けている。事業所で出来る事・出来ない事を十分に説明しながら方針を共有している。また、必要に応じて主治医・訪問看護・家族・職員の関係者と連携を取り、利用者が安心して暮らせるようチームとしての支援に取り組んでいる	毎年1～2名の看取りを行っています。契約の際に急変時の意向を確認し、看取りの同意書をもらい本人・家族の了解を得ています。重度化した場合には医師を交えて話し合いを重ね、納得のいく最期を迎えられるよう支援しています。このホームで最期を迎えられてよかったという家族の音がきかれます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や初期対応に関するホーム内研修を行なっている。どのスタッフでも緊急時に対応できるよう、勤務を調整し消防署の開催する普通救命講習に参加もしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行う事により、昼夜問わず利用者が安全に避難できる方法を訓練している。また、避難の際には緊急連絡網により、近隣住民の協力が得られるようになっている。	消防署立会(2回)と自主訓練(夜間想定、地震避難誘導を含む)を年4回実施しています。2階には車いすも使える非常口スロープもあり、スプリンクラー、消火器等防災装備は整い、連絡網、緊急対応表も掲示され、7日分の備蓄も準備されています。近隣住民の協力体制も出来ています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格や誇り・プライバシーを損ねる言葉掛け(排泄や入浴に関する事や失敗を宣伝・指摘するようは発言等)や対応について、会議で話し合ったり、その都度個々に話しをしている。職員間でもお互いに配慮している。	個人ファイルはカギのかかる棚に保管しています。利用者の呼び方は家族に聞いたり、本人が一番安心する呼び方を見つけるなど個別に対応しています。利用者への言葉使いや羞恥心への配慮は職員がお互いに注意したり、話し合うことで尊厳を守る支援につなげています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	少しでも自分で選択したり、決定できるような機会を多く設けている。また、外食会や外出企画の際には企画の段階から利用者に参加して頂いたり、日頃の会話の中から思いや希望をくみ取り、実現できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで生活して頂けるよう柔軟に支援している。起床就寝時間・入浴時間・日中の過ごし方等も本人の希望や体調を考慮し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容に来てもらい、希望者に利用して頂いている。また、「起床時には一緒に好みの服(色)を選んで頂けるよう支援したり、顔拭き・顔そり等も意識的に行ない身だしなみには配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作り昼食を週二回取り入れ、利用者と一緒に買い物に出掛て食材選びや献て決めをしている。また、日常生活の中でも、簡単な調理や味付け・盛り付け・片づけ等を一緒に行う事により、役割を見出し協力しながらもひとりひとりの力を発揮できるよう支援している。	週に2回利用者と職員がメニューを考えて買い物に行き、利用者も食材を切ったり盛り付けたりできることを行っています。またゼリーなどのおやつを作ったり、みそやパンを作るなど、食の楽しみを支援しています。小グループで行く回転寿司は一番の人気です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂食量や水分量が1日を通じて確保出来るよう記録を共有して対応している。また、その方の状況や能力・習慣に応じた対応も申し送りノートを活用しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きやうがい等、その方に応じて促しや介助を行っている。また、訪問歯科により定期的な口腔ケアやその方にあった磨き方等のアドバイスを貰っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄パターンを排泄表により大まかに把握しているので、随時個々に合わせたさり気ない誘いや介助をしている。	自宅ではおむつだった人がリハビリパンツになったり、パットへの失禁が減ったという例があります。個々の排泄のタイミングを把握して、適切なトイレ誘導や介助をおこなうことで排泄の自立を支援していることがわかります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活の中に身体を動かす機会を意識的に取り入れたり、野菜を多く取り入れた献立や食べやすい形態にする等の工夫を行い、便秘の予防や改善に努めている。また、便秘時にはDrと相談し下剤調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望や必要に応じていつでも入浴出来るよう支援している。一般浴槽に入るのが困難になってしまった利用者に対しては入浴リフトを使用し、安全に入浴して頂けるように支援している。	週に3回のペースで入浴していますが、本人の体調や毎日入りたいという希望などに沿って柔軟に対応しています。浴室には好きな音楽を流し、職員との会話も弾みます。拒否のある人に「入浴しながらアイスを食べよう」と声かけをするなど、工夫を凝らして入浴を促しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩や日常生活の中で身体を動かす機会を通じて、日中の活動量を増やし夜間ぐっすり眠って頂けるよう工夫している。また、なかなか寝付けない・眠れない方については睡眠状況を観察し、Drや家族に報告・相談している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容や副作用・注意点・薬の目的等、また服薬時の介助方法や注意点等について申し送りノートで情報共有し、対応している。症状の変化等に関しては記録し、家族・Drに報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や買い物だけでなく利用者の楽しみやパン教室・生け花・絵手紙・季節行事等楽しんで頂いている様子。月一回の歌会も楽しみにしている利用者が多い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を実現出来るよう努力している。近隣の散歩だけでなく、ドライブやピクニック・日用品の買物等にもお誘いし、戸外に出掛ける機会を多く支援している。また、季節行事以外にも外食会や買物・イチゴ狩り・房総や水郷佐原への日帰り遠足等、個々の希望を企画に反映させている。	天気が良ければ毎日散歩に出かけており、状態に応じて短・中・長距離に分けて歩いています。またイチゴ狩りや花見などの年間行事のほかに買い物や外食など、個別に出かける機会を設けています。庭で食事をしたり、ピクニックでお弁当を食べることもあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持している利用者はいない。買物に行った際に、会計をお願いすることはあるが、一部の限られた利用者だけである。買物は立替え対応で欲しい物や必要な物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中お見舞いの葉書を家族や友人宛てにサロンで作成し投函したり、それ以外でも手紙や電話のやりとりも自由に出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が居心地良く過ごせるよう配慮している。季節感や生活館を意識した飾り付けを利用者と一緒に相談しながら作成している。自室や廊下に企画の写真を掲示し、思い出話をしたり家族や面会者にも見て頂けるようにした。	リビング兼食堂は、明るく、厨房からの調理の匂いや音で生活感があります。壁には、季節の貼り絵(コスモスやイノシシなど)や行事の写真が多く飾られています。トイレには、アンパンマンの絵や写真が沢山貼られ、楽しんで過ごせるように工夫されています。利用者はバルコニーでお茶や外気浴しながらゆったりと過ごしています。管理者は湿度や室温、臭いにも気を配っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った者同士で盛り付けや調理や食事をしたり、談話や作業をしたり出来るようテーブルを分けたり、まとめたりして対応している。また、リビングのソファだけでなく廊下にもベンチや椅子を設置しているので、その時の気分に応じ、好きな場所で寛いで頂けるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や使いなれた物を持ちこんで頂いている。少しでも住み慣れた生活環境に近づけ、安心して居心地よく暮らして頂けるよう配慮している。また、行事や企画の写真や家族との写真等飾っている。	利用者は、清潔な居室にテレビ、家族の写真、タンスなど馴染みの物を持ち込み、自宅に居るように好みの部屋に変え、居心地良く過ごしています。壁には本人の書いた絵や、習字、職員から贈られた「誕生日おめでとう」の色紙などが飾られ、ホームの温かさを感じます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には大きな文字や写真で表札があったり、トイレも見やすい表示にしている。廊下は夜間足元を照らす灯りをつけ安全対策をしている。夜間起きてくる利用者のベッド下にセンサーを設置したり、上掛けやベッド柵に鈴をつけてすぐ訪室出来るようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270200551		
法人名	株式会社 ユタカ		
事業所名	花梨の郷2階		
所在地	千葉県花見川区111-1		
自己評価作成日	令和1年8月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

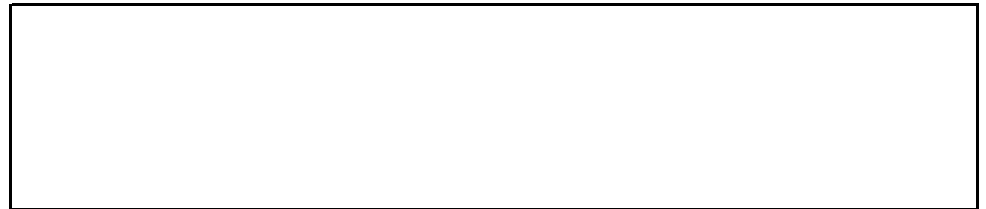
基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

掲げた理念を毎日のサービスで実施しています。医療面では、利用者に応じて往診医を取り入れています。歯科医は2週間に1回、看護師が週に1回、利用者により週2回訪問し、健康チェックを行う体制になっています。ケアの面では、利用者本位のケアを心がけ、ボランティアによる歌の教室やサロンなどの各種企画の場で利用者が自分の能力を発揮する機会を各場面に設けています。入浴はいつでも可能で、リフト浴機も備えています。利用者の重度化に伴い職員を一人増員してケアの万全を図っています。また、近所の小学生との交流や託児所の子供との触れ合い、定期的なバザーの開催などで地域との交流を大切にしています。スプリングラー及び2階には非常階段を設置、また、定期的な避難訓練も実施しています。



V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作り、家族・職員にも見える所に掲示している。管理者と職員は理念を共有し、実践に繋げて。月1回のフロア会議・合同会議で確認しながら実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会主催の行事参加や、買い物や散歩等を通じ顔見知りの方との触れ合い、近隣の小学校や中学校の体験学習会等の機会を持ち、地域の一員として日常的に交流の機会を持っている。 近隣への福祉用具貸与・入浴も受け入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で自治会長さんや民生委員さんと認知症の人の理解や支援の方法について話し合っている。 民生委員さんを通じ地域住民の方々と交流が持てるように考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での話し合いでは、第三者評価の結果・ホーム内での現状を報告したり、感染症(インフルエンザや食中毒)の時期には対応策も説明している。 非常時に花梨で出来ること、協力して頂きたいことなども意見交換し、サービスの向上に生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者や区役所の援護課とは日頃から何かと相談に乗って頂いたり、グループホーム協会を通じて実情や困難事例等を報告している。また、事故発生時には速やかに報告し、積極的に行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内研修により、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は施錠せずアラームを使用している、外部研修を予定している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修においても、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を設け、日常の会議でも事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族から要望のあった方に関しては支援させて頂いている。ホーム内研修も予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に詳細に説明し納得して頂いており、それ以外でも必要に応じて行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の際に、意見や要望を表せる機会を設けている。家族参加企画ではアンケートも実施している。また、契約の際にも国保連の相談窓口の案内をし、玄関にもポスターを開示している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、個別面談や会議の場を通じ、運営に関する意見や提案を話し合える関係を作り、反映させている。 短時間パート募集は、職員からの意見を反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は勤務状況を把握し、個別面談時に話し合いの場を設け、職員個々の努力や実績・勤務態度や勤務状況が給与に反映できるよう努めている。又、賞与や会議手当・皆勤手当・資格手当等も有り、やりがい・向上心を持って働けるよう努めている。妊娠・出産後も安心して働ける環境がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人のケアの実際と力量を把握し、ホーム内の研修開催や外部研修を受ける事で、働きながらステップアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しているので、同業者との交流や学ぶ機会がある。また、近隣グループホームとの合同企画を通じ職員の質の向上に向けた取り組みをしている。他施設からの研修生を受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や相談・事前訪問の際に本人からも聞き取りを行うことによって、不安に感じていることや困っていること等を直接聞く機会を設け、少しでも不安が軽減できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や相談・事前訪問の際に本人がいない状況での聞き取りを行うことによって、不安なことや困っていること等を直接聞く機会を設け、今後の方向性や家族の要望等を話し合うことで、少しでも不安が軽減できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	導入の際に、本人と家族からの話し合いを通じ、不安や要望を聞かせて頂くことから、何が改善されれば気持ちよく暮らせるかを見極め、他のサービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共にする中で、趣味や特技を発揮できる場面作りを行い、利用者自身から教えていただいたり、相談したりと、支えあえるような関係作りを努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と共に利用者を支えるチームの一員として協力し合い、家族参加の行事を通じて楽しい時間を一緒に過ごしたり、利用者の心配事等も家族に相談し、出来る事を取り入れて一緒に本人の為に支えあえる関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで大切にしてきた馴染みの人や家族との絆を重視し、交流や手紙・電話・外出・外泊等も自由にできるように支援に努めている。また、馴染みの場所へ出かけたりする企画も立てている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活や企画(各種教室やサロン等)を通じ、利用者同士が関わり合い、出来る事・出来ない事をお互いに支えあう関係作りができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られ契約が終了した場合は面会に伺ったり、亡くなられた場合は命日にお墓参り行ったりお盆にはお花を贈ったりして、絆が途切れないようにしている。ホーム内の企画に招待したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を共にする中で、会話や個別ケアでの触れ合いを通じ、思いや希望・意向を汲み取る努力をし、困難な場合には観察から判断したり、家族と話し合ったりして本人の意向を汲み取るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や馴染みの暮らし方・生活環境等の情報等を、連絡ノートを活用し、情報の共有を図っている。また、家族や前ケアマネとも連絡を取り合っ て把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の心身状況に合わせた1日の過ごし方や有する能力の見極め等、日々の関わりの中で把握に努め対応している。また、勤務者は業務前に記録を読む事により、把握して仕事ができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には、本人からの言葉や家族・必要な関係者との話し合いや、職員からの情報収集・意見等を参考にして、現状に即した介護計画を作成している。見直しは3か月ごと或いは必要に応じて行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人一人の日々の様子や会話を詳細に記録に残し、気づきや工夫等を連絡ノートに記載することで、小さな情報でも共有し、実践や介護計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や日常生活を通しての関わりの中で発見したニーズ等を共有化し、本人の意向や思いを実現できるよう柔軟に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が顔馴染みの関係作りや、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう積極的に自治会活動への参加や地域の中に出かける機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が選んだかかりつけ医の元で適切な医療が受けられるよう支援している。また、必要な方に関しては訪問歯科・訪問診療の往診を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師が週1回、人によって2回訪問した際、近状報告や気づきを報告し、情報共有している。その事により、個々の利用者が適切な受診や看護を受け、安心して暮らせるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や入院中の状況把握に努め、早期退院に向け病院関係者や家族との情報交換・相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針について、契約の段階で説明・同意を得ているが、利用者の状況に応じて家族との話し合いの場を設け、事業所で出来る事・出来ない事を十分に説明しながら方針を共有している。また、必要に応じて主治医・訪問看護師・家族・職員等の関係者と連携を取り、利用者が安心して暮らせるようチームとして支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や初期対応に関してのホーム内研修を行っている。今後は運営推進会議の場を活用し、地域の方々と共に救命講習等を開催していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行う事により、昼夜を問わず利用者が安全に避難できる方法を確認している。また、避難の際には緊急連絡網により、近隣住民の協力が得られるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格や誇り・プライバシーを損ねることのないような言葉かけ(排泄や入浴に関する事や失敗を宣伝・指摘するような発言)や対応について、会議の場で話し合ったり、その都度、個別に話をしている。職員間でもお互いに配慮しあっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	少しでも自分で選択したり決定出来るような機会を多く設けている。また、外食会や外出企画の際には企画立案の段階から利用者に参加していただいたり、日ごろの会話の中から思いや希望を汲み取り、少しでも実現できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースで生活していただけるように柔軟に支援している。起床時間・就寝時間・入浴や食事の時間・日中の過ごし方等も、本人の希望・体調を考慮し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を取り入れ、希望者に利用していただいている。また、起床時には一緒に好みの服(色)を選んでいただけるよう支援したり、顔拭き・顔そり等も解除し、身だしなみには配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作り昼食を週2回取り入れ、事前に利用者と一緒に買い物に行っている。自分たちで食材を選び献立を考えている。また、日常生活の中でも、簡単な調理や味付け・盛り付けや片付けを共に行う事により、役割を見出し、協力しながら一人一人の力を発揮できるよう支援している。自分たちで作った味噌・パンを食べる楽しみもある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分量が1日を通じて確保できるよう、記録を共有して対応している。また、その方の状況や能力・習慣に応じた対応も、連絡ノートを活用しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きやうがい等、その方に応じて促しや介助を行っている。また、訪問歯科の協力により、定期的な口腔清掃や職員へのアドバイスも受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを排泄表により大まかに把握しているので、随時個々に合わせたさりげない誘いや介助をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活中に体を動かす機会を意図的に取り入れたり、野菜を多く取り入れた献立や食べやすい形態にする等の工夫を行い、便秘の予防や改善に努めている。必要時にはDr.と相談し、下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者希望や必要に応じていつでも入浴できるよう支援している。無理強いはずに本人と話したり自己決定に沿って対応している。一般浴槽に入るのが困難になってしまった利用者に対しては、入浴リフトを使用して安心して安全に入浴していただけるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩や日常生活の中での身体を動かす機会を通じて、日中の活動量を増やし夜間グッスリと眠って頂けるよう工夫している。また、なかなか寝付けず眠れない方については、睡眠状況を観察・記録し、Dr.や家族に報告・相談し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容や副作用・注意点・薬の目的等、また服薬時の介助方法や注意点について連絡ノートで情報共有し、対応している。症状の変化等に関しては記録し、家族Dr.に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や買い物だけでなく、ボランティアに協力していただき、パン教室や生け花・味噌作りなどを行っている。お花見やそうめん流し等各種季節の行事を大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を実現できるよう努力している。近隣の散歩だけではなく、ドライブやピクニック・日用品の買い物等にもお誘いし、戸外に出かける機会を多く支援している。季節行事以外にも、房総・いちご狩り・水郷佐原への日帰り遠足等、個々の希望を企画に反映させ、支援している。近年は重度化した利用者が増えているが、可能な限り、無理のないように出かけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方・希望される方については、家族の同意のもと自由であるが、現在は所持している人はいない。しかし、買い物に行った際には、スタッフに代わり利用者に会計をお願いすることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いのハガキ等、家族や友人宛に書いて頂いている。それ以外にも、手紙や電話のやり取りも自由にできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が居心地よく過ごせるよう配慮している。季節感や生活感を意識した飾りつけを利用者と相談しながら一緒に行っている。廊下やリビングの壁には各自の作品や小学生が作ってくれた折り紙・行事の写真を掲示し、思い出話をしたり、面会の方にも見て頂けるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士で盛り付けや調理・食事をしたり、談話や作業をしたり出来るよう、テーブルを分けたりまとめたりと対応している。また、リビングのソファだけでなく、廊下にもベンチやイスを設置しているので、その時の気分に応じ、好きな場所でくつろいでいただけるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や使い慣れたものを持ち込んで頂いている。少しでも住み慣れた生活環境に近づけ、安心して居心地よく暮らして頂けるよう配慮している。また、行事の写真や家族との写真・自分で作ったものなども飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には名前を大きな字で記名し、トイレ表示も大きな字で書いている。廊下には手すりを設け、夜間は足元を照らす灯りを点けて安全対策をしている。夜間転倒しそうな利用者にはセンサーを設置している。		